

WEEKLY SIGNAL

平成28年11月4日(金) 1348号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/7(月)	11/8(火)	11/9(水)	11/10(木)	11/11(金)
無担保O/N			△0.086%	～	0.001%
銀行券	+ 1,300	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△ 19,400	+ 2,000	+ 2,000	△ 48,000	+ 1,000
資金需給	不 18,100	余 3,000	余 2,000	不 48,000	余 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			国庫短期証券発行・償還(6M) 国債発行(10年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 400 国債補充供給 + 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,400 ETF買入 + 200	国債買入 + 7,100 短国買入 + 10,000			
(日本)	日銀金融政策決定会合の 議事要旨(9/20・21分) 毎月勤労統計(9月)	景気動向指数(9月) 消費活動指数	貸出・預金動向(10月) 国際収支(9月) 特定サービス産業動態統計(9月)	金融政策決定会合の 主な意見(10/31・11/1分) 機械受注(9月) マネーストック(10月)	企業物価指数(10月)
(海外)	米 労働市場情勢指数(10月) 米 消費者信用残高(9月) 欧 ユーロ圏小売売上高(9月) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ)	米 大統領選挙、議会選挙 米 シカゴ連銀総裁、講演	米 卸売在庫・売上高(9月) 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演	米 週間新規失業保険申請 件数(前週分) 米 財政収支(10月) 米 セントルイス連銀総裁、講演	米 ベテランズデーの祝日 債券市場は休場 株式市場は通常通り 米 ミシガン大学消費者マインド指数 (11月速報値) フィッシャーFRB副議長、講演 (日中銀の会合)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

<インターバンク>

当座預金残高は週初、315兆9,600億円から始まった。その後は短国・国債買入を主に増加し、週末は318兆6,200億円で越週した。無担保コールON物は、月末を跨ぐ週であったが、出合のレンジに変化はなく、加重平均金利は△0.047%～△0.044%で取引される落ち着いた地合いで推移した。ターム物は今積期内のエンドを意識する動きが強かったことから、1～2W物での出合が中心であった。31日、1日に行われた金融政策決定会合では、長短金利操作及び、資産買い入れ方針は共に賛成7反対2で現状維持となった。同日に公表された、経済・物価情勢の展望では、「2018年度までの見通し期間を通じて、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられる。」とした一方、2%の「物価安定の目標」にむけたモメンタムについては、「維持されているとみられるものの、前回見通しに比べると幾分弱まっており、今後、注意深く点検していく必要がある。」とした。来週の予定は、金融政策決定会合の議事要旨(7日)、主な意見(10日)、海外では、大統領選挙、議会選挙(8日)などが挙げられる。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約2,000億円で、期落ち額約1,900億円(金融機関・ABCP除く)と同程度であった。10月末発行を終え、発行市場は一旦閑散となった。  
a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割りで推移した。  
現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。

<TDB>

2日に国庫短期証券3M第643回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2568%(前回債△0.2456%)、平均落札レートは△0.2623%(同△0.2568%)と前回債と比べて利回りは若干低下した。セカンダリーは3Mで△0.285%近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合は見られず、1Yは△0.32%近辺の地合いとなっている。来週8日に6M、10日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは先週に引き続き△0.09%台の出合から始まった。短国3Mの発行日である7日受渡もレート水準にはほとんど変化は見られず、△0.09%近辺の出合が中心であった。週末には短国・国債買入オペが合計1兆7,100億円オファーされ、出合水準は低下。一部△0.11%近辺での出合を付け越週した。SC取引は、先週同様10年344回債と338回債のビッドが多く見られ、344回債は週央にかけて概ね△0.10%台前半～半ばで取引されていたが、週末には△0.50%近辺までレートが低下した。338回債は△0.40%台の出合が多く見られた。他では2年367・369回債、5年124・127・128・129回債、10年332・340・341・342・343回債、20年156・157・158回債、30年52回債、40年9回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。